OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行:関西学生サッカー連盟
2011年7月5日発行

PRIME MINISTER CUP

Japan University Football Association

第35回　総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント
2011年7月5日（火）　2回戦



写真：同点弾に喜ぶ仙台大。
惜しくもＰＫ戦で涙をのんだ（撮影：藤田望）

■7月5日（火）@大阪長居第２陸上競技場　《第１試合》15:30 KICK OFF 浜松大学－国士舘大学

関西王者、地元阪南大を降した浜松大と、逆転で福岡大に辛勝した国士舘大の対戦。国士舘大・細田三二監督が警戒するのは、浜松大ＦＷ 9, 村松知輝。阪南大戦では鋭いドリブルで果敢に突破を仕掛け、相手ＤＦを混乱に陥れ貴重な決勝点も挙げた。国士舘大の注目は、「点を獲る感覚は持っている」と細田監督も高く評価する19, 田中俊哉。福岡大戦には交代で登場し２得点と暴れた。６年ぶり出場（浜松大）と４年連続出場（国士舘大）の両校の対戦。「大阪の夏」の頂点へ―コマを進めるのはいずれか。　（文：サッカーライター　貞永 晃二）

《第２試合》18:00 KICK OFF 流通経済大学－中央大学

ＰＫ戦を制した流通経済大は、「選手の調子も良くないなりに、何とか戦いたい」と中野雄二監督が言うように、U―２２（２２歳以下）日本代表の司令塔・ＭＦ 3, 山村和也（４年）の調子が戻るかどうかが勝負に影響を与えそう。対する中央大は、立ち上がりの試合運びに失敗した初戦の経験を生かし、「全員が運動量を増やし、倒れるまで走りたい」と佐藤健監督は闘志を燃やす。

（読売新聞大阪運動部　安田 栄一）

■7月5日（火）@J-GREEN堺　《第１試合》15:30 KICK OFF 桃山学院大学－明治大学

昨年の総理大臣杯・インカレ準優勝校の中京大を破った桃山学院大と、１回戦では３－０と順調に勝ち進んだ関東の名門・明治大が２回戦でぶつかる。強靭なフィジカルと、じっくり攻撃を組み立てる明治大に対し、速いパスサッカーを掲げる桃山学院大との一戦は見ものだ。「手強い相手だが、しっかり０で抑えたい」と桃山学院大主将・ＭＦ 18, 須ノ又諭。一方の明治大・神川明彦監督は「中１日というのは、恐らく９０分で決着が付かない試合になると思う」と冷静に分析。準決勝に勝ち進めるのは果たしてどちらか。

（文：フリーライター　久住 真穂）

《第２試合》18:00 KICK OFF 北海道教育大学岩見沢校―大阪体育大学

「堅守速攻」が持ち味のチーム同士の対戦となった。北海道教育大岩見沢校は初戦、センターバックの11, 鈴木雄太（４年）を中心に、高知大の猛攻をはね返し無失点と自信を深めた。一方の大体大も4, 濱上孝次（３年）、3, 菅原渉（３年）が構えるＤＦラインは強固。接戦が予想される中、セットプレーが試合の行方を大きく左右しそうだ。

（読売新聞大阪運動部　岡田 浩幸）

第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
2011年7月3日(日) 1回戦 大阪長居スタジアム GAME RESULT

新潟経営大学ＶＳ中央大学 15:30 KICK OFF

中央大の佐藤健監督は、「前半は何も出来なかった」と苦笑して９０分を振り返ったが、鮮やかな逆転劇だった。相手のカウンターに翻弄され、４２分に先制されたが、５５分、ＭＦ 7,渡部一平（４年）のスルーパスに反応したＦＷ 9,林容平（４年）が右足で冷静に決め、まずは同点。その４分後には、後半から入ったＤＦ 5,高瀬優孝（２年）が、相手陣でクリアボールを拾うと、右足を振り抜き、約４０ｍのロングシュートを豪快に決めた。

佐藤監督は、「前半は全体的に間延びしてしまったが、後半は動きも良くなった」と苦笑しながら振り返った。ハーフタイム以降、疲れで足が止まった新潟経営大に対し、中央大は、ＭＦ 8,田仲智紀（３年）や渡部らを中心に運動量が上がり、細かなパスがつながるようになった。高瀬の逆転弾も、相手を押し込む中で生まれたもの。後半から軌道修正する適応力の高さが勝因だろう。

対する新潟経営大は、個人技で抜け出したＭＦ 8,御座啓介（４年）が先制したまでは良かったが、好機を逃す場面を増えるとその後は失速。「後半も０点でしのがないと、上にはいけない。また出直しです」と杉山学監督は再起を誓った。

（読売新聞大阪運動部　安田 栄一）

新潟経営大　１－２　中央大

◇出場選手

新潟経営大	中央大
21 東川 陸	1 岡西 宏祐
3 西田 潤	2 田港 周平
4 菊地 伸也	3 藤村 将世
7 金 尚佑	4 大岩 一貴
10 松坂 昇	13 今井 智基(→ 5 高瀬 優孝)
8 御座 啓介(→15 木村 晋作)	7 渡部 一平
9 田原 陽平(→23 稲葉 旬)	8 田仲 智紀
18 田中 僚	14 澤田 崇
20 野崎 真人	19 椎名 正巳(→11 安 柄俊)
11 田中 剛(→13 青木 秀)	9 林 容平
12 ｿﾛﾓﾝ ｱﾓｲｼｨ	17 奥山 慎(→18 細見 諒)

◆得点(アシスト)

新潟経営大 42分 8 御座 啓介
中央大　　55分 9 林 容平(7 渡部 一平)
中央大　　59分 5 高瀬 優孝

流通経済大学ＶＳ仙台大学 18:00 KICK OFF

流通経済大　１－１　仙台大
ＰＫ
５－４

◇出場選手

流通経済大	仙台大
1 増田 卓也	1 秋葉 智人
8 保戸田 春彦	2 菅井 拓也
17 小川 晃平	5 平野 洋輔
4 乾 大知	22 乾 智貴
29 田向 泰輝	6 菅井 慎也
5 中里 崇宏	28 今出川 歩夢(→ 4 蜂須賀 孝治)
3 山村 和也	8 黒田 涼太(→17 佐藤 世弥)
10 関戸 健二(→ 7 村瀬 勇太)	10 熊谷 達也
15 椎名 伸志	11 嶺岸 光
13 征矢 智和(→14 河本 明人)	9 奥埜 博亮
18 中美 慶哉(→23 古川 大士)	18 鳥山 祥之(→ 7 森田 光哉)

◆得点(アシスト)

流通経済大 25分 10 関戸 健二
仙台大　　78分 11 嶺岸 光

圧倒的なタレント陣を誇る流通経済大に、震災の被害を乗り越えた仙台大が挑んだ。

序盤は流通経済大の技術力の高さが光った。15,椎名伸志（２年）、13,征矢智和（４年）、18,中美慶哉（２年）の３トップが少ないタッチでパスを回し、個人技を絡めて攻めた。そして２５分、ＭＦ 10,関戸健二（４年）が、ゴールほぼ正面から約２５ｍのミドルシュートをたたき込んだ。

だがその後、仙台大が息を吹き返した。Ｊ１・ベガルタ仙台に内定の9,奥埜博亮（４年）、11,嶺岸光（２年）、18,鳥山祥之（１年）の３トップが相手ゴールを脅かすと、７８分、嶺岸のシュートが相手に当たってコースが変わる幸運もあり、追いついた。

延長戦で決着がつかず、ＰＫ戦に突入すると、仙台大の５人目のキッカーが外し、勝負あった。「内容は課題も多く、完敗だった。仙台大の気持ちに圧倒された」と流通経済大の中野雄二監督。相手に押し込まれる場面も目立ったが、苦しみながらも勝ち進む“しぶとさ”も、トーナメントには必要だ。

震災後、１か月間は練習が出来なかったという仙台大の吉井秀邦監督は「一生懸命に戦った選手には、下を向いてほしくない」とイレブンをねぎらい、会場を後にした。

（読売新聞大阪運動部　安田 栄一）

第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
2011年7月3日(日) 1回戦 キンチョウスタジアム GAME RESULT

阪南大学ＶＳ浜松大学 15:32 KICK OFF

関西選手権優勝の阪南大と東海地区２位の浜松大の対戦。

試合開始から主導権を握ったのは阪南大。４分に9,村山拓哉（４年）のシュートが左ポストにヒットし、６分のチャンスはクロスバーに嫌われた。決めるべきところを決めないと、逆にピンチを迎えるのがサッカーだ。１１分、浜松大は9,村松知輝（３年）が左コーナーから強引なドリブルで切り込み相手ＤＦのカバーが一瞬遅れたところで右足を一閃、豪快なシュートがネットを揺らした。浜松大には初チャンス、初シュート、しかも前半唯一となるシュートが先制点につながった。追いかける阪南大だが、ペースは握ったまま。３６分、温存していたエース14,井上翔太（４年）投入で圧迫を強める。しかし確実に決めようとしてシュートタイミングが遅れたり、シュートに力がなく同点ゴールは遠い。

後半もボールを支配しチャンスの山を築いた阪南大だが、シュートが正面を突く。一方、浜松大は村松のドリブル突破頼りだが、シュートで終わることが、阪南大の攻めの流れを切るには効果的だった。「（阪南大の）テンポが同じだったから対応できた」とは浜松大・長澤和明監督。６年ぶりの出場で嬉しいベスト８入り。一方、阪南大はまたも「全国」では勝てなかった。

（文：サッカーライター　貞永 晃二）

阪南大　０－１　浜松大

◇出場選手

阪南大	浜松大
21 原田 直樹	1 佐野 恭佑
35 朴 賛友	3 徳武 正之
4 永井 鷹也	4 鍋田 圭吾
19 飯尾 竜太朗	11 関嶋 順起
26 藤内 建太(→ 3 二見 宏志)	13 後藤 亮太
12 谷本 泰基	5 土田 太陸
8 窪田 良	8 増田 誠也
9 村山 拓哉	10 大槻 優平(→24 加藤 喬大)
11 泉澤 仁	18 大町 将悟
18 奥野 将平(→14 井上 翔太)	7 神谷 嶺輔(→12 大石 明日希)
10 中村 雄大(→16 本多 勇喜)	9 村松 知輝(→27 前田 陽平)

◆得点(アシスト)

浜松大 11分 9 村松 知輝

国士舘大学ＶＳ福岡大学 18:00 KICK OFF

国士舘大　２－１　福岡大

◇出場選手

国士舘大	福岡大
30 石田 昇平	16 藤嶋 栄介
15 蛭子 順平	4 牟田 雄祐
6 奥田 秀吉	3 串間 雄峰
3 今瀬 淳也	30 大武 峻(→ 7 長谷 慎司)
28 瀬川 和樹	8 黒木 恭平
9 金子 昌広	14 岸田 翔平
7 佐藤 優平	17 假屋 健太
5 生方 翼(→16 池ヶ谷 颯斗)	19 田村 友
27 進藤 誠司(→11 岩崎 昇也)	22 田中 智大
22 服部 康平(→19 田中 俊哉)	27 岡田 峻(→10 石津 大介)
10 吉野 峻光	29 山崎 凌吾(→24 藤田 大輔)

◆得点(アシスト)

福岡大　68分　4 牟田 雄祐(8 黒木 恭平)

国士舘大 70分 19 田中 俊哉(10 吉野 峻光, 15 蛭子 順平)

国士舘大 89分 19 田中 俊哉(10 吉野 峻光)

出場は４年連続の国士舘大と３年連続の福岡大という常連同士の激突。

福岡大は守備時に３人の長身ＣＢを挟む形での５バックでライン形成。「驚いた」とは国士舘大・細田三二監督。国士舘大にスペースを与えない狙いだ。試合はともに序盤からタテに早い攻撃を仕掛ける。１分に福岡大が、３分に国士舘大がそれぞれ初シュート。国士舘大は右サイド9,金子昌広（３年）からのクロスが何本も入るが、高さを誇る福岡大ＤＦ陣は容易に弾き返していく。前半のシュート数は国士舘大２、福岡大３と決定機も見せ場も皆無。

後半も互いの守備ブロックをこじ開けられないまま時間は経過する。こんな試合はセットプレーがカギを握るものだが、その予感通り福岡大は６８分、8,黒木恭平（４年）の左ＣＫから4,牟田雄祐（３年）の豪快なヘッドで先制する。しかしリードもわずか３分間。国士舘大はカウンター、右からのクロスを交代出場の19,田中俊哉（４年）が決めて試合は振り出しに。互いの勝利への執念が、試合を激しい攻防戦へと変化させていく。そして終盤の８９分、同点ゴールをアシストした10,吉野峻光（４年）が今度は左サイドから中へ、これをまたも田中が蹴り込み、国士舘大は見事な逆転勝利。次は昨年同様の４強入り、そしてさらにその上を狙う。

（文：サッカーライター　貞永 晃二）

第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
2011年7月3日(日) 1回戦 三木総合防災公園陸上競技場 GAME RESULT

広島経済大学ＶＳ明治大学 15:33 KICK OFF

関東リーグでは６位と苦しむ明治大が３－０と総理大臣杯で順調な滑り出しを見せた。

４年ぶりの出場となった広島経済大は３－４－３のフラット型のシステムを採用。「５バックになることもある」（ＭＦ21,沖田一樹・４年）と、守備、中盤に人数をかける広島経済大に明治大も苦戦。しかし、これは想定内。こう着状態を破ったのは、やはり大学選抜３選手を擁する明治大だった。「タイミングが合いやすい」（神川明彦監督）というＭＦ18,矢田旭（２年）のＣＫをＤＦ 3,吉田啓祐（４年）が地面に叩きつける豪快なヘディングで先制。これでリズムを掴んだ明治大は、持ち前のキープ力で試合を支配する。４０分には、吉田のロングフィードに反応したＦＷ11,阪野豊史（３年）がＤＦの裏へ飛び出し２－０。「前半は完璧」と神川明彦監督も振り返る。

後半、明治大ペースで展開するが、堅い守備に追加点が遠い。なんとしても得点がほしい広島経済大はＭＦ 41,児玉教幸（２年）がサイド突破を試みるが、大型ＦＷ 19,井上友輔（１年）はマークされ、仕事をさせてもらえない。最後は途中交代で入った明治大・ＦＷ 28,三橋隼斗（２年）が試合を決定付ける３点目を奪い、貫禄あるゲーム運びで明治大が２回戦へと駒を進めた。

（文：フリーライター　久住 真穂）

広島経済大　０－３　明治大

◇出場選手

広島経済大	明治大
31 澤田 和志	1 高木 駿
14 温品 篤	12 豊嶋 剛平
35 仁保 圭太(→42 小川 裕貴)	3 吉田 啓祐
64 甲田 隼大	4 丸山 祐市
8 遠部 大樹(→92 佐々木 邦公)	14 松藤 正伸
18 渡 翔太(→17 砂田 直人)	6 楠木 啓介
21 沖田 一樹	10 三田 啓貴(→28 三橋 隼斗)
22 内田 雄一	18 矢田 旭
41 児玉 教幸	7 田中 恵太
88 木村 昂平	20 岩渕 良太(→22 野間 涼太)
19 井上 友輔	11 阪野 豊史(→ 5 宮阪 政樹)

◆得点(アシスト)

明治大 22分　3 吉田 啓祐(18 矢田 旭)
明治大 40分 11 阪野 豊史(3 吉田 啓祐)
明治大 84分 28 三橋 隼斗(18 矢田 旭)

中京大学ＶＳ桃山学院大学 18:03 KICK OFF

中京大　０－１　桃山学院大

◇出場選手

中京大	桃山学院大
17 奥村 佳也	21 圍 謙太朗
3 加藤 駿一(→10 佐藤 和弘)	2 中嶋 亮(→40 染田 良輔)
16 新里 亮	37 谷口 功
2 須崎 恭平	28 朴 斗翼
18 小川 真司	30 草野 雄也
6 中田 智久(→ 5 石原 卓)	15 面家 康生
4 熊澤 圭祐	18 須ノ又 諭
7 南部 健造	14 山瀬 彰也(→23 宮下 航)
23 澁谷 元気	38 道上 隼人(→22 松本 翼)
27 飯沼 壮貴(→14 清水 貴文)	11 齋藤 達也
9 藤牧 祥吾	36 中東 優治

◆得点(アシスト)

桃山学院大 27分 38 道上 隼人

昨年度の準優勝校・中京大が敗れた。撃破したのは、関西の雄・桃山学院大。序盤の１点を守りきり、久しぶりの全国大会で結果を残した。

攻撃陣は１６０㎝台の小柄な選手が多い桃山学院大。経験・体格・身長ともに勝る中京大だが、桃山学院大の速いパスサッカーに翻弄される。27分、ＤＦ 30,草野雄也（３年）のＣＫにファーで待ち構えていたＦＷ 36,中東優治（３年）。惜しくもシュートはポストに当たり、跳ね返されたこぼれ球をＭＦ 38,道上隼人（２年）が押し込み待望のゴール。桃山学院大が均衡を破った。中京大は大学選抜の経験もあるＦＷ 9,藤牧祥吾（４年）をターゲットに得点を狙うが、桃山学院大守備陣が自由にさせない。左サイドでは桃山大ＤＦ 2,中嶋亮（４年）と、中京大ＭＦ 7,南部健造（１年）のマッチアップが繰り広げられるなど、激しい戦いとなったが「選手たちは集中して本当によくやってくれた」（桃山学院大・楚輪博監督）とサイドチェンジなど有効にスペースを使い、らしさを存分に発揮した桃山学院大が殊勝の１点を死守し、２回戦進出。

「悔しい。自分達の力不足。齊藤和樹さん（現Ｊ2ロアッソ熊本）が抜けた穴を埋めることは出来なかった」（ＭＦ 4,熊澤圭祐主将・４年）と決定力不足を敗因に挙げ、昨年度、総理大臣杯・インカレともにファイナリストの中京大が１回戦で姿を消すこととなった。

（文：フリーライター　久住 真穂）

第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
2011年7月3日(日) 1回戦 J-GREEN堺・メインフィールド GAME RESULT

JUFA Japan University Football Association

高知大学ＶＳ北海道教育大学岩見沢校 15：30 KICK OFF

少ないチャンスを確実に得点につなげた北海道教育大岩見沢校（以下、北教岩）が、総理大臣杯初出場で初勝利を挙げた。序盤から大会常連の高知大が試合の主導権を握る。司令塔のＭＦ 10,竹内宏次朗（３年）を中心に、得意のパス回しから再三ゴールに迫る。しかし先制したのは北教岩だった。前半16分、ＣＫに飛び込んだＤＦ 28,葛西大（１年）が頭で合わせて先制点を挙げる。本来は左サイドバックだが、主力の負傷で急きょ前線に入ったルーキーが貴重な先制点を挙げる。

この１点が高知大に重くのしかかった。高知大は後半も再三相手ゴール前に迫るも、焦りからか決めきれない。後半５分にはＦＷ 11,三輪雄祐（３年）が決定的なシュートを外すと、その後も相手ＧＫ 1,岩田健太郎（４年）の好セーブの前に、無得点。野地照樹監督も「あれだけ打って決めきれないと…」と肩を落とした。逆に北教岩は後半ロスタイム、カウンターから葛西が追加点を挙げ、高知大を突き放した。シュート数は高知大18に対し、北教岩が８。北教岩が苦しみながらも、持ち前の粘りで初勝利をもぎ取った。

（読売新聞大阪運動部　岡田 浩幸）

高知大　０－２　北海道教育大岩見沢校

◇出場選手

高知大	北海道教育大岩見沢校
1 片山 裕登	1 岩田 健太郎
3 赤木 俊秀	28 葛西 大
2 岩崎 将斗	14 船場 俊介
4 山部 晃	11 鈴木 雄太
14 塚本 諒	8 藤間 俊弥
15 中田 龍吾(→12 永瀬 覚)	3 廣瀬 拓哉
6 西山 巧真	9 内田 圭祐
8 渡部 亮武	22 上原 拓郎
10 竹内 宏次朗(→20 有間 潤)	27 阿部 大翔(→ 4 河崎 敬)
11 三輪 雄祐(→ 7 植木 二朗)	29 竹内 清弥
9 福本 圭	15 大地 優貴(→31 岡井 奨悟)

◆得点(アシスト)

北海道教育大岩見沢校　16分 28 葛西 大(22 上原 拓郎)
北海道教育大岩見沢校 90＋3分 28 葛西 大(31 岡井 奨悟)

大阪体育大学ＶＳ早稲田大学 18:00 KICK OFF

大阪体育大　２－２　早稲田大　ＰＫ　４－２

◇出場選手

大阪体育大	早稲田大
31 姫野 昂志	1 赤堀　勇太
16 松竹 貴大	3 菅井 順平
4 濱上 孝次	12 山地 翔
3 菅原 渉	22 福田 勝也
5 馬場 将大	17 三竿 雄斗
8 松澤 憲伸(→10 脇 睦)	5 島田 譲
20 山田 貴文	7 柿沼 貴宏
17 小竹 一輝(→ 2 池永 航)	14 白井 豪(10 奥井　諒)
18 田上 勇輝	8 近藤 貴司(20 畠山　祐輔)
6 山本 大稀	11 小井土 翔
22 渡邉 悠介(→24 山口 幸太)	9 富山 貴光(23 永田　宏紀)

◆得点(アシスト)

大阪体育大　18分　6 山本 大稀
早稲田大　58分 14 白井 豪(9 富山 貴光)
大阪体育大　93分 22 渡邉 悠介
早稲田大　103分 23 永田 宏紀(22 福田 勝也)

ＰＫ戦に及んだ死闘を大阪体育大が制した。

前半から激しい競り合い、奪い合いが続く中、１８分、大阪体育大のＦＷ 6,山本大稀（２年）がドリブルで切れ込み、ゴール右隅に流し込んで先制した。

だが後半に入ると早稲田大が攻勢を強める。５８分、ＦＷ 9,富山貴光（３年）が強引に持ち込み、その折り返しをＭＦ 14,白井豪（３年）が押し込んで同点。逆転を目指し、さらに勢いづくが、８０分にＤＦ 12,山地翔（３年）が警告２枚で退場となり、追加点を奪えないまま延長戦に突入した。

延長前半は、数的優位に立った大阪体育大が攻め込む。９３分、高い位置でボールを奪うと、ＦＷ 22,渡邉悠介（２年）がけり込んで2―1。試合は決まったかに思えたが、延長後半の１０３分、途中交代で入った早稲田のＤＦ 23,永田宏紀（４年）が頭で押し込み、再び同点とした。ＰＫ戦までもつれ込んだ戦いに決着をつけたのは、大阪体育大のＧＫ 31,姫野昂志（３年）だった。１本目を止めて流れを呼び込むと、２本目もセーブ。「関西学生選手権の準決勝、関西大戦でも同じような状況だった。ＰＫには自信はあった」と姫野。照明器の故障で約８分間中断したり、審判に抗議したとして坂本康博総監督が退場処分になるなど荒れた試合展開で、最後まで冷静だった守護神が、大阪体育大に３大会ぶりの勝利をもたらした。

（読売新聞大阪運動部　岡田 浩幸）

みんなが愛するサッカーのように心をひとつに

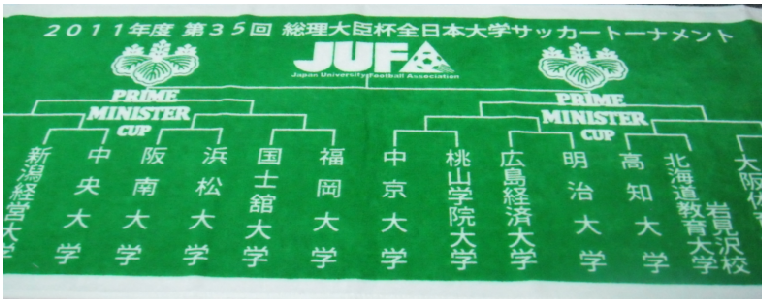




サッカーを通して私たちにできること
～Loop to football～
グッズの収益の一部は支援金となります

記念タオルや
チームストラップなど発売！
～ご観戦の記念に・・・～

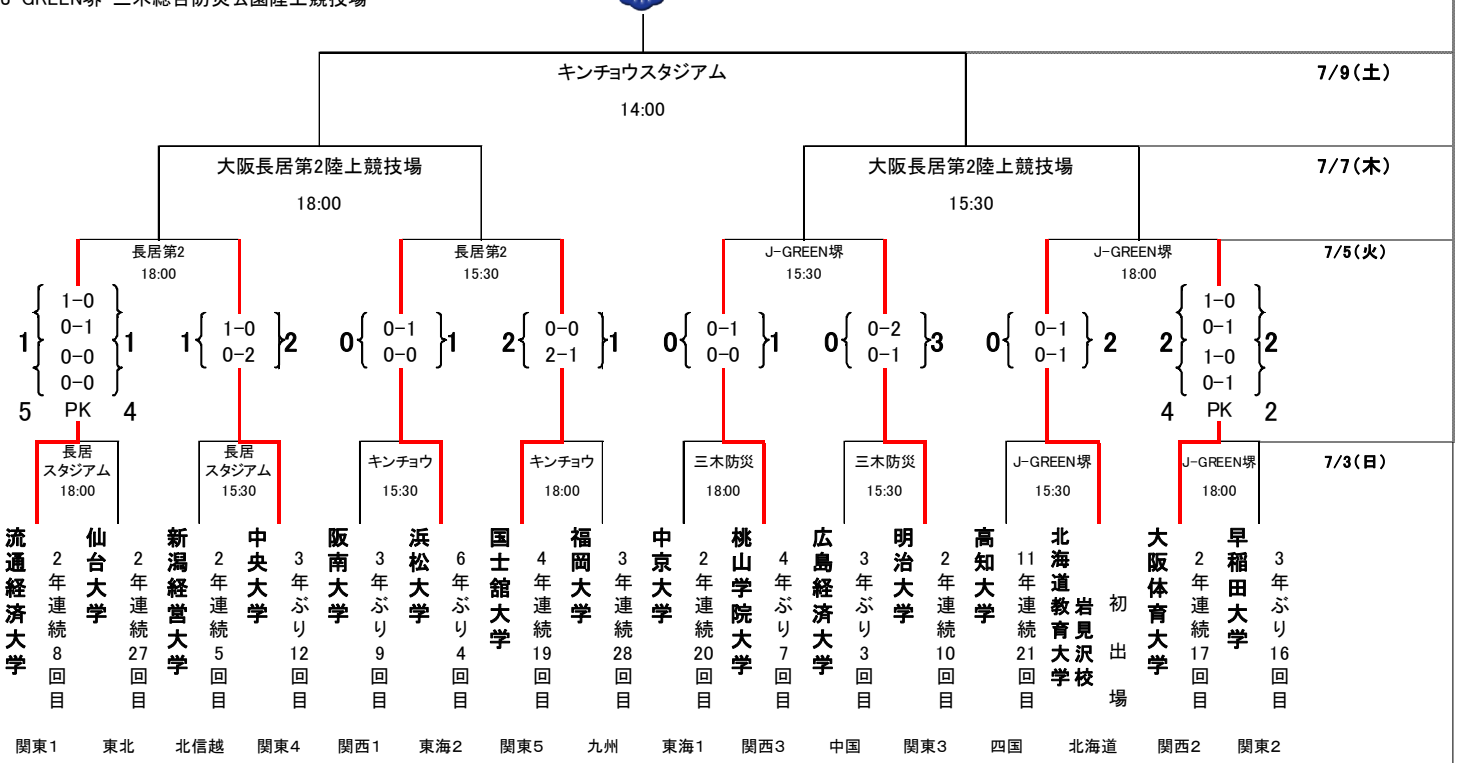
まずは、ゲートにGO !!



2011年度 第35回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
（PRIME MINISTER CUP 2011）

【会場】
キンチョウスタジアム・大阪長居スタジアム
大阪長居第2陸上競技場
J-GREEN堺・三木総合防災公園陸上競技場

☆決勝戦は読売テレビにて7/10（日）深夜放送予定



※何らかの理由により、決勝戦が7月9日(土)に行えなかった場合、7月10日(日)に同会場、同時間で行う予定です。

大会プログラム好評発売中！！ **～選手情報が満載　1冊1,000円～**
前売りチケット発売中！！ ～準決勝以降は有料。ゲートにて絶賛発売中～